

トビウオ通信 (R3 第5号)

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《令和2年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網第1種漁業（かけまわし）

1隻当たり漁獲量は平年を下回り、水揚金額は平年並み

島根県の小型底びき網第1種漁業（かけまわし）39隻の令和2年漁期（令和2年9月1日～令和3年5月31日）の総漁獲量は3,353トン、総水揚金額は14億9,521万円でした。

また、1隻当たりの漁獲量（以下、CPUE）は86.2トン、水揚金額は3,845万円で、漁獲量は平年を12%下回り、水揚金額は平年を6%下回りました（過去10ヶ年平均：99トン、4,074万円）（図1）。

ソウハチ、ムシガレイは平年を下回る

ソウハチのCPUEは15.4トンで平年の8割、ムシガレイのCPUEは2.6トンで平年の8割でした。ヒレグロのCPUEは3.2トンで、平年の4割と低調でした。過去10年間（H23年～R2年）のCPUEの動向は、ソウハチは「減少」、ムシガレイは「微減」、ヒレグロは「減少」の傾向にあります。一方、アカガレイのCPUEは8.0トンで、平年の1.4倍と好調であり、ここ10年ほど増加傾向にあります。

ケンサキイカは依然として低水準、ヤリイカは好調

ケンサキイカのCPUEは1.7トンで、前年の2.7倍、平年の6割となり、平成5年漁期以降で最低の水揚げを記録した前年漁期は上回りましたが、依然として低水準が続いています。ヤリイカのCPUEは4.1トンで前年の2.7倍、平年の1.7倍と好調であった一方、スルメイカのCPUEは1.1トンで前年の3割、平年の5割と低調でした。

アナゴ・ハモ類は好調、アカムツは平年並み

アナゴ・ハモ類のCPUEは6.1トン（平年の1.2倍）で好調でした。アカムツのCPUEは4.2トン（平年の1.1倍）で平年並みでしたが、ここ2年は減少傾向にあります。一方、キダイおよびニギスのCPUEは、それぞれ3.9トン（平年の8割）および5.2トン（平年の6割）で、ともに平年を下回りました。両魚種とも、ここ10年ほどCPUEは減少傾向にあります。

この他、アンコウ類のCPUEは10.2トンで平年の1.4倍と好調でしたが、マダラのCPUEは2.0トンで平年の4割と低調でした。

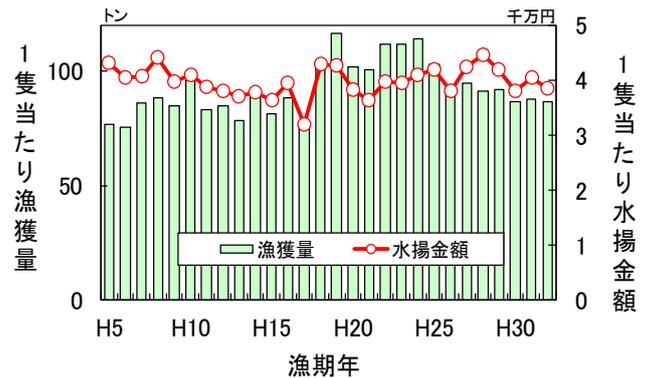


図1 小型底びき網第1種漁業における1隻当たり漁獲量と水揚金額の経年変化

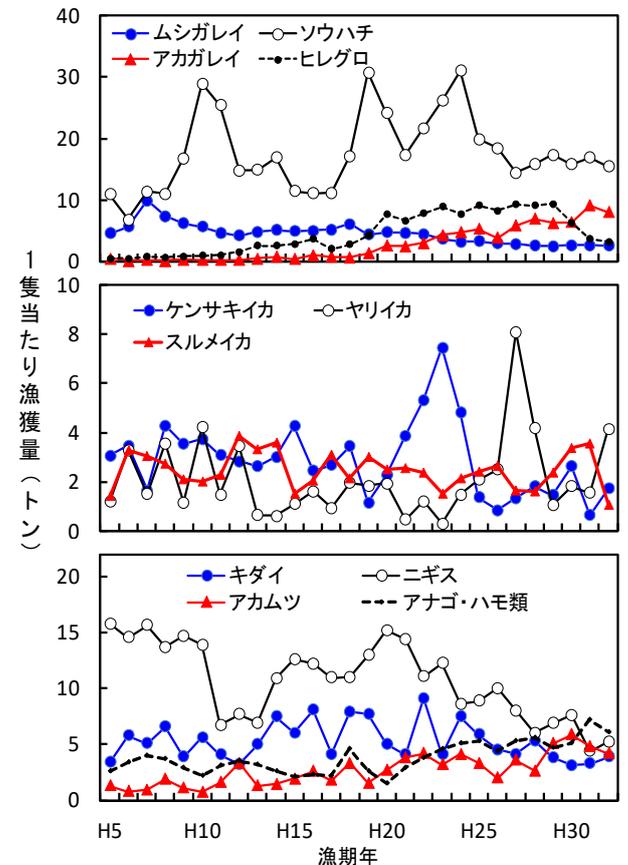


図2 小型底びき網第1種漁業における主要魚種の漁獲動向

＜文中の語句説明＞

☞ 平年は、過去10年〔平成22年漁期～令和元年漁期〕の平均です。

☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。

沖合底びき網漁業(2そうびき)

1 統当たり漁獲量は平年並み、金額は平年を上回る

浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業(操業統数4統)の令和2年漁期(令和2年8月16日～令和3年5月31日)の総漁獲量は2,541トン、総水揚金額は13億5,723万円でした。

また、1統当たりの漁獲量(CPUE)は635トン、水揚金額は3億3,931万円で、漁獲量は平年を1%上回り、水揚金額は平年を11%上回りました(過去10年平均:628トン、3億603万円)(図3)。

ムシガレイは平年を下回る、ソウハチは平年並み

ムシガレイのCPUEは37トンで平年の6割、ソウハチのCPUEは44トンで平年の1.1倍の水揚げでした。過去10年間(H23年～R2年)のCPUEの動向は、ムシガレイは「減少」、ソウハチは「増加」の傾向にあります。一方、ヤナギムシガレイのCPUEは11トンで平年の9割でした。

ケンサキイカ、ヤリイカは好調

ケンサキイカおよびヤリイカのCPUEはそれぞれ86トン(平年の2.0倍)および29トン(平年の3.6倍)で、ともに平年を上回る好調な水揚げでした。ケンサキイカは、秋季の水揚げは前年漁期と同様の不漁でしたが、漁期後半の2月～5月に好漁が続いたため、CPUEは平成元年漁期以降で最高となりました。

アナゴ類は平年を上回る、アンコウ類は平年を下回る

アナゴ類のCPUEは52トンで平年の1.2倍、アンコウ類のCPUEは28トンで平年の8割でした。過去10年間(H23年～R2年)のCPUEの動向は、アナゴ類は「増加」、アンコウ類は「横ばい」の傾向にあります。

アカムツ、キダイは平年を上回る、マフグは依然として低水準

アカムツのCPUEは47トン(平年の1.2倍)で、平年を上回る水揚げとなりましたが、ここ3年は減少傾向が続いています。キダイのCPUEは74トン(平年の1.1倍)で、平年を上回りました。マフグのCPUEは8トン(平年の2割)で、依然として低水準が続いています。

この他、マダラのCPUEは24トンで平年の3.4倍、マトウダイのCPUEは30トンで平年の1.7倍、マダイのCPUEは19トンで平年の1.3倍と好調でしたが、スルメイカのCPUEは19トンで平年の6割、カワハギ類のCPUEは12トンで平年の5割、ニギスのCPUEは5トンで平年の3割と低調でした。

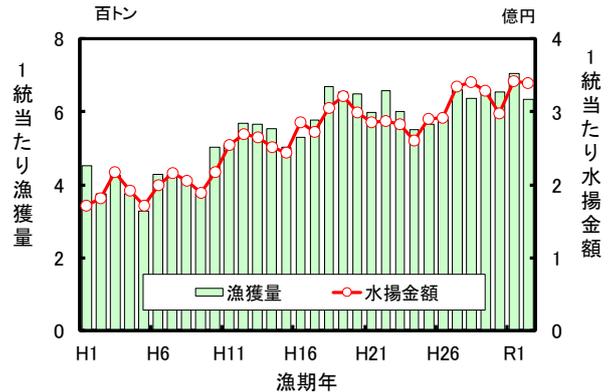


図3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の経年変化

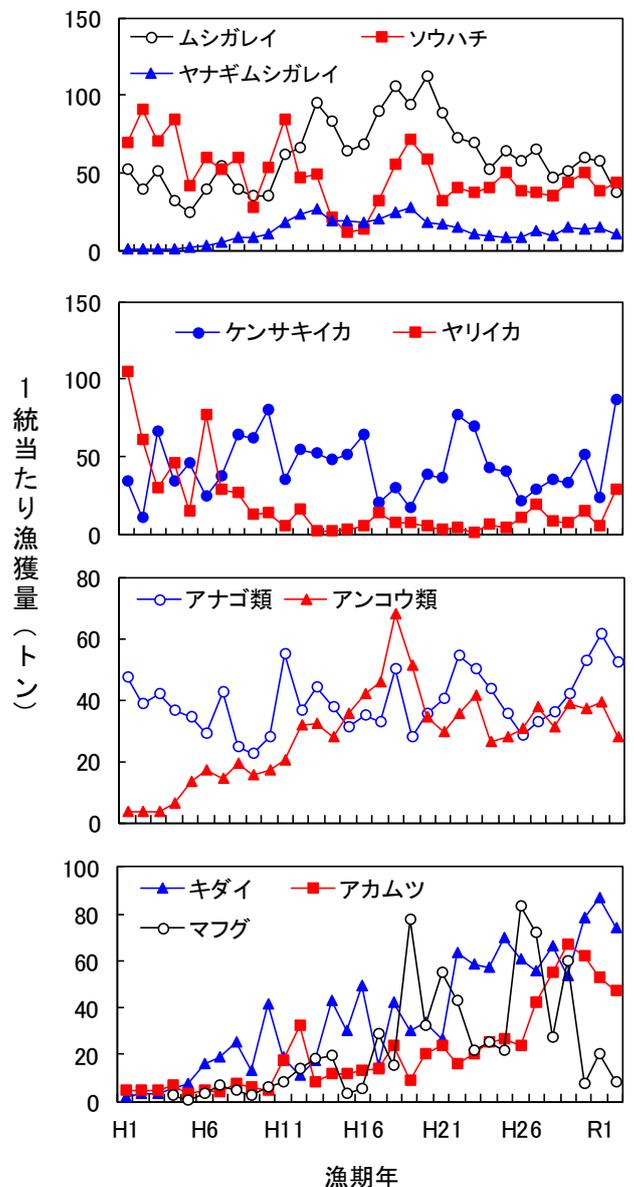


図4 沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向